

今ならいえる、「ありがとう」

私の家族の話。私の父は頑固で、言葉遣いも乱暴だ。私も父に似ていて、自分の意見や考えをストレートに言い、曲げない性格なので、よく父と喧嘩をした。子どものころは、なにをするにも「あかん」「～するな」と命令口調のオンパレード。短いスカートをはいていたら「スカートをはくな」、夜テスト勉強をしていたら「早く寝ろ」、朝ご飯を食べずに学校に行こうとしたら「ちゃんと食べろ」、などなどこちらの都合はおかまいなし。しかし、最近父のタンスをあけると、私が小さいころに渡した手紙や絵、肩たたき券、はじめて作った貯金箱など、私が渡したことすら覚えていないようなものまで今もクッキーの缶にしまわれていて、驚いた。よくよく母に聞くと、父は娘の私が低体重で生まれたことで何をすることも心配で心配で仕方がなかったとのこと。スカートの件も体を冷やしてほしくないから。早く寝ろという言葉も、朝ご飯を無理やり食べさせるのも私の体を思っていたことだったらしい。親は、子どもが病気やけがをしないように、悲しい思いをしないように先回りして教えてあげたくなる。いま私は大人になって、やっと父の思いに気づくことができた。

毎年今までスルーしてきた父の日だったが、そのことをきっかけに先月の父の日、遅くなって恥ずかしかったけど、私は人生で初めて心から「ありがとう」を伝えることができた。